

会 議 要 旨

(1 / 5)

会 議 の 名 称	令和 6 年度第 1 回川越市立博物館協議会
開 催 日 時	令和 6 年 8 月 2 8 日 (水) 午後 2 時 0 0 分 開会 ・ 午後 4 時 3 0 分 閉会
開 催 場 所	川越市立博物館 会議室
議長 (会長)	山野清二郎 (会長)
出席委員 (人数)	山野清二郎 (会長)、能瀬さち子 (副会長)、水谷薫 (副会長)、 生駒義郎、矢部智史、寺田智礼、松本勇一、松本紀美子、大金正司、 市川常善、河合正雄、武成志、丹治清、水島明子 (1 4 人)
欠席委員 (人数)	羽石明 (1 人)
事 務 局 職 員 職 氏 名	中里館長、荻野副館長、伊藤副主幹、杉野副主幹、大澤副主幹、鈴木主任
会 議 次 第	○ 委嘱書交付 ○ 令和 6 年度第 1 回川越市立博物館協議会 - I 役員選出 - II 会長あいさつ - III 報告事項 1 令和 6 年度博物館職員体制 2 博物館協議会 3 令和 5 年度入館状況 4 令和 5 年度事業報告 5 令和 6 年度事業計画 - IV その他 - V 閉 会
配 布 資 料	令和 6 年度第 1 回川越市立博物館協議会 次第 令和 6 年度第 1 回川越市立博物館協議会 資料 等

議 事 の 経 過

Ⅰ 役員選出

Ⅱ 会長あいさつ

Ⅲ 報告事項

1 令和6年度博物館職員体制

(事務局より説明)

【意見・質疑応答】

なし

2 博物館協議会

(事務局より説明)

【意見・質疑応答】

・なし

3 令和5年度入館状況

(事務局より説明)

【質疑応答】

・無料入館者の内訳

(回答)

川越市立博物館条例施行規則に則って減免している。

また、市民の日・敬老の日等来館日を理由とした減免もある。

・飲食を提供する休憩所がない。対応すべきではないか。

(回答)

自動販売機の設置を検討している。

・市立博物館のホームページの運営について

(回答)

・現在は各担当が担当部分を更新している。1月に市のホームページ自体がリニューアル予定であるため、そこで市立博物館のページもリニューアルする予定である。

議 事 の 経 過

- ・市立博物館と川越城本丸御殿の来館者数の差をなくすため、2館を一枚のチケットにしてはどうか。

(回答)

現在、市立博物館と川越城本丸御殿共通のチケットとして市立博物館・川越城本丸御殿・美術館の限定3館共通のチケットを現在販売している。

【意見】

- ・無料の日の来館者が再度来訪する展示や企画がよい。
- ・来館者のニーズを把握する上で、来館者アンケートはあるとよい。
- ・博物館で美味しくて有名な飲食物が提供されるのも一種の来館誘因になるのではないかな。
- ・来館者を増やすためには宣伝も大切である。若い人たちに面白いことをやっているなど思ってもらうことが大事である。
- ・他の部局と連携したら、事業がより効果的に実施できるのではないかな。
- ・昔は市立博物館が川越城本丸御殿より入館者数が多かった。来館者が本物志向になり、歴史文化への考え方が変わってきたと言える。新しいニーズを察知しながら運営を変えていく必要がある。
- ・川越城本丸御殿はテレビや観光ガイド記事、専門誌に取り上げられているから行こうと思う。インターネット記事で取り上げてもらうなど検討してはどうか。
- ・他の市立博物館と比べたら入館者数はトップクラスである。
- ・川越の観光は食べ歩きだけで終始しがちだが、市立博物館は本来の川越の文化を発信する場所として重要である。
- ・観光客の1%呼び込むことができれば多くなる。事業戦略が重要になる。著名な人物を招いて川越の歴史に関する講演会を行い、市内の企業とタイアップした街歩き等も効果的なのではないかな。

議 事 の 経 過

4 令和5年度事業報告

(事務局より説明)

【質疑応答】

- ・企画展と特別展の違いは何か。

(回答)

収蔵品展と館蔵資料公開は市内の資料のみを使用して行う。

企画展は市外から資料を借用してくる。

特別展は100周年などの特別な場合を示す。

- ・博物館利用研究委員会の研究概要を知りたい。

(回答)

学校で教材として利用できるものを発掘している。

- ・博物館だよりは発行しないのか

(回答)

デジタルでの復刊を目指している。

- ・令和5年度の資料の収集は多いのか。購入費は年間どのくらいを見込んで
いるのか。

(回答)

必要があれば購入している。予算は20万円程度である。また、どうしても購入が必要な場合は別途対応を検討することになっている。

【意見】

- ・市立博物館も大学と連携して川越から文化を発信することをするべき。

- ・研究テーマで協力する検討をしてもよいのではないか。

- ・研究紀要は発刊すべきである。館員が原稿を執筆できなければ外部に依頼する等して対応すべきである。また、毎年講演会を実施しているのでそれを原稿にすればよいのではないか。

議 事 の 経 過

5 令和6年度事業計画

(事務局より説明)

【質疑応答】

- ・高等学校5年経験者研修社会貢献活動体験研修は川越市内の教員すべてが来るのか。

(回答)

希望する高等学校がある場合、実施される。

- ・小学校6学年のバス利用による博物館学習が前半後半に分かれるのはなぜか。学習の流れに沿った効果的な利用になっているのか。

(回答)

バスのチャーターの関係と受入学級数が多く、1日の受入学級数と人数に限界があるため前半と後半に分かれている。

学習進度は各学校と打ち合わせて調整している。

- ・指導主事が一人減ったが運営上問題はないのか。

(回答)

2名体制の時に比べて学校との打ち合わせ等、負担が重くなっている。指導主事が行っていた仕事で一般職員でも出来ることは一般職員がやるようにしている。

【意見】

- ・以前、川越商工会議所がやっていた川越検定のようにガイドの勉強をしてもらって、認定をして、川越の文化を普及させていくという事業はできないか。
- ・川越案内人を育成・認定することによって、その人たちがより川越について学ぶきっかけとなる。
- ・次の世代の人々を育成していくのはとても重要なことである。

IV その他

【意見】

活発で有意義な意見交換ができたと考える。有意義な意見交換ができるので協議会の回数をもっと多くてもよいのではないか。

V 閉 会

以上